

# みやぎの 林業だより



## 表紙写真

登米町森林組合では、加工が難しいとされているコナラ材を活用した学童用机を開発しました。今後、登米市内の小中学校への配置を予定しています。

<写真大>

登米市内中学校での使用状況

<写真小>

登米市内のコナラ広葉樹林

<関連記事P2>

平成27年8月10日  
発行

206号

## 目次

【話題】	◎「もくもくハウス仙台店」が宮城野萩大通りで再オープン…………… 2
	◎登米市産のコナラ材を活用した学童用机が完成しました…………… 2
	◎おおさき山がっこの取組…………… 3
	◎仙南地域でたけのこ出荷制限解除地区が広がりました…………… 3
	◎「原木なめこ生産再開講習会」を開催しました…………… 4
	◎栗原地域のなめこ生産者が頑張っています…………… 4
	◎(公社)宮城県緑化推進委員会による植樹式が開催されました…………… 5
	◎第4回県民参加の森林づくり植樹祭が開催されました…………… 5
	◎「市民参加の新たな森林づくり・春」植樹祭を開催…………… 6
	◎「海岸防災林再生・きずな苗木植樹」の開催…………… 6
	◎未利用間伐材利用促進対策の補助事業の活用を…………… 7
	◎松くい虫被害対策の取組…………… 7
	◎七ヶ宿町林業懇談会が開催されました…………… 8
	◎宮城県森林情報提供システムの運用開始について…………… 8
	◎森林吸収オフセット・クレジットの推進について…………… 9
	◎林業の講座と研修のお知らせ…………… 9
【シリーズ】	◎研究情報コーナー
	・平成27年度林業試験研究及び種苗生産計画の概要…………… 10
【シリーズ】	◎森林管理署情報
	・宮城県国有林野等所在市町村長連絡協議会が開催されました…………… 11
	・JICA研修生が仙台湾沿岸の海岸防災林で視察研修を行いました…………… 11
	◎森林組合系統・農林中央金庫による木製品寄贈の取組…………… 12
【市況】	◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 13

「もくもくハウス仙台店」が  
宮城野萩大通りで再オープン

今年三月まで仙台駅東口にありました「もくもくハウス仙台店」が、六月六日(土)、装いも新たに仙台市宮城野萩大通り(大和町一丁目)に場所を移して再オープンしました。



もくもくハウス外観

午前十時の開店から、オープンを聞きつけた人たちが次々と訪れていました。  
おしゃれな木のうつわ、小物、おもちゃなど、登米市津山の木工職人が心を込めて作った商品を多数取りそろえています。



もくもくハウスの店内①



もくもくハウスの店内②

登米市津山町の道の駅もくもくくらんどにある「津山店」ともども皆様の御来店をお待ちしております。

(東部地方振興事務所)

登米地域事務所

登米市産のコナラ材を  
活用した学童用机が  
完成しました

登米町森林組合では、平成二十五年年度森林整備加速化・林業再生事業の「地域材利用開発」を活用し、加工が難しいとされているコナラ材を活用した新製品「コナラ天板学童用机」を開発しました。事業を進めるに当たり、「広葉樹資源の適切な管理とその活用」及び「地域産業の活性化推進」をテーマとして、宮城大産学構想学部及び(有)ウッドディアベエ工芸等を構成員に迎え、登米市と宮城県を支援機関とした産学官連携プロジェクト「登米地域材活用新製品開発検討委員会」を設置しました。  
プロジェクトでは、登米市内



学童机天板(コナラ材)

の中学校においてモニタリング調査等を実施し、本格的な生産に向けて関係機関と協議・検討を重ね、問題点・課題点等を洗い出しながらブラッシュアップを繰り返しながら、製品としての完成度を高めてきました。



生徒の使用状況

その結果、宮城県グリーン製品として認定され販売に至るとともに、登米市では、今後四年間で市内全小中学校に本製品を配置する予定となりました。今年度は、一部に市町村振興総合補助金(みやぎ木のやすらぎ空間確保対策事業)を活用し、一三七七台の導入が計画されています。

(東部地方振興事務所)

登米地域事務所

### ホホサキ山がっこの取組

北部地方振興事務所では平成十二年に「おホサキ山がっこ情報バンク」を設置し、小中学校が行う「森林・林業教育」を支援しています。この活動で支援した取組を二つ、御紹介します。

①五月二十八日(木)に、中新田小学校の総合学習の時間を利用して、「森林の働きを知ろう」を題材とした学習会を開催しました。

学習会には、四年生の六十名が参加し、森林の土砂流出防止機能や水源かん養機能などに関する実験やクイズに楽しみながら取り組みました。

特に、スポンジを森林土壌に見立てた水質浄化実験では、墨



真剣な眼差しの児童

を溶かした黒色の水が透明に変わる様子に多くの児童が驚いていました。

②毎年六月から七月に、美里町内の小学校が小牛田農林高校学校林で実施する自然観察体験に「おホサキ山がっこ情報バンクサポーター」を派遣しています。今年も、南郷、中埴、小牛田、不動堂、北浦の各小学校の一、二年生に、約一時間三十分、森林内を散策しながら、草木や昆虫等の話をしました。ホウノキの葉のお面づくりや沢での沢ガニ獲りなどに興じ、どの児童も最後まで元氣いっぱい自然観察を体験していました。

地域の小中学校と連携し、今後も、子供達の体験を支援してまいります。



歓声を上げる児童  
「沢ガニいない。」「石の下だよ。」

(北部地方振興事務所)

### 仙南地域でたけのこ出荷制限解除地区が広がりました

この春(四月二十四日)、白石市全域、丸森町旧丸森町地区及び同町旧小斎村地区の三つの地区で、新たにたけのこの出荷制限が解除されました。

たけのこに対する出荷制限は、放射性物質の影響により、平成二十四年五月一日から続いています。今回の解除は、昨年の丸森町旧耕野村に続くものとなり、解除された地区が広がりました。

解除に向けた国との協議では、追加データを急遽求められ、生産者の協力のもと冬場(二月、三月)に地中のたけのこを早掘りするなど、様々な努力を重ねてきました。

その結果、四月のたけのこシーズンに入ってからとなりましたが、当年度産たけのこを出荷できる時期の解除に間に合わせる事ができました。

当管内で出荷制限継続中の五地区(丸森町内)については、引き続き早期の解除を目指して生産者及び関係者と協力して取組を進めてまいります。



白石市たけのこ初出荷  
(場所: 白石市 小十郎の郷)



平成27年産たけのこ



今年度のお出荷セレモニー  
(丸森町耕野地区)

(大河原地方振興事務所)

### 「原木なめこ生産再開講習会」を開催しました

四月二十一日(火)、気仙沼市本吉町のJA南三陸・本吉営農センター会議室において、生産再開意欲のある気仙沼市内の生産者等九名の参加の下、講習会を開催しました。

これは、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質被害により、気仙沼市産原木なめこが平成二十四年十一月以来、出荷自粛となっており、ことから、原木なめこの生産再開を目指して開催したものです。

気仙沼市内で生産される原木なめこは、主に市内直売所で販売されています。震災復興に係る地域のイメージアップのためにも、原木なめこの生産再開は必要になっていきます。

講習会では、解除の条件や手続きについての情報提供や意見交換を行いました。

①現時点ではコナラ、クリ、サクラは指標値を超えきこの原木として使えないが、管内のクルミ、クワは自伐して使えること、②放射性物質低減のための栽培管理を行うことがポイント

であることを説明しました。参加者からは、「原木きこのと山菜の出荷制限解除を目指した協議会の設立が必要」などの意見が出されました。

きのこ原木の確保は、早くても今年の秋となります。今後は、市、農協と連携し、生産者に対する現場での支援を希望していますので、生産再開を希望する方は、気仙沼地方振興事務所農林振興部へ御連絡願います。



講習会の様子

(気仙沼地方振興事務所)

### 栗原地域のなめこ生産者が頑張っています

宮城県の名産こ生産量は年間五〇六トンですが、その内の四一六トン、約八十二割が栗原市内で生産されています。市内三箇所になめこ生産施設があり、それぞれが特徴のある独自の生産を行うことで、県内なめこの安定生産を担っています。

一方、なめこは夏季に市場単価が下落することに加え、特に震災後は、施設の復旧や放射性物質汚染の風評被害等により厳しい経営を強いられています。

この状況を打開するために、それぞれの生産施設が生鮮なめこの生産だけではなく、加工品等の商品開発とその販売を行っていますので、御紹介します。

#### ● 築館地区の施設

乾しいたけ用の乾燥機を活用することで、全国的にも珍しい乾燥なめこを製造・販売し、市場でも高い評価を得ています。ここでは、この乾燥なめこを具材とした炊き込みご飯の素を開発して、市内直売所等で販売しています。

#### ● 栗駒地区の施設①

当事務所が調整役となり、地

域の山菜加工事業者と共同して、なめこ醤油煮の瓶詰を開発、商品化しました。現在、栗駒や鳴子の温泉施設等で販売しています。

#### ● 栗駒地区の施設②

株状で大型のなめこを生産し差別化を図っています。また、夏季に低コストで栽培できるきくらげを生産し、なめこをミックスした水煮をスーパーの地場産品売り場等で販売しています。

以上のように栗原のなめこ生産者は、岩手・宮城内陸地震と東日本大震災による二度の大きな被害にも屈することなく、県下のなめこ生産を牽引しています。当事務所としても引き続き、生産・販売に対して支援を行っていきま



市内のなめこ生産者が開発した加工品

(北部地方振興事務所)

栗原地域事務所

### 公益社団法人宮城県緑化推進委員会による 植樹式が開催されました

本県沿岸部の海岸防災林の造成は、藩政時代に伊達政宗公が「潮除須賀松林」造成に着手したことからはじまりました。

しかし、代々地域の人々の手により整備されてきた海岸防災林も、東日本大震災の津波により甚大な被害を被りました。このため、県では被災した海岸防災林の復旧に向け、国と連携を図りながら造成工事を進めているところです。

このような海岸防災林の再生に当たり、県では海岸防災林と地域社会との密接な関わりでの再生を目指し、民間団体等の参加・協働による「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」を推進しています。平成二十七年六月現在八団体と協定を締結し、地域の方々の力を始め全国からの参加者の方々の力を借りながら



早く大きく  
な~れ!

ら植栽活動を実施しています。

四月二十六日(日)と五月二十四日(日)には、二回にわたって公益社団法人宮城県緑化推進委員会・県共催の植樹式が「岩沼潮除須賀松の森」植樹式と題し開催されました。二日間で県内外から合計三一二名の参加があり、一三七七本のマツタイムシ抵抗性のクロマツコンテナ苗が植栽されました。

両日とも好天に恵まれ、地域を守り愛される海岸防災林が早期に再生されるよう、参加者全員で力を合わせました。



第一回岩沼潮除須賀松の森植樹式  
集合写真

県では、豊かなみんなの森林が後世に引き継がれるよう、多くの皆様の協力を頂きながら、今後も海岸防災林の再生に取り組んでまいります。

(森林整備課治山班)

### 第四回県民参加の森林づくり 植樹祭が開催されました

五月三十日(土)、亘理町吉田字砂浜の県有林で「第四回県民参加の森林づくり植樹祭」が開催されました。当日は、公募による一般市民や地元児童など約一五〇人が参加し、東日本大震災で被災した海岸林跡地にクロマツ苗木四八〇〇本を手植えました。

植樹祭を主催した「みやぎ森林づくり支援センター」は、石巻市の合板会社や合板工場に原木を供給している素材生産事業者等が設立した民間団体で、森林の育成と循環利用を推進するため、伐採後に再造林した森林所有者に、一畝当たり最大十万円を助成する取組を平成二十年度から行っています。

植樹祭は、こうした取組を広く知っていただき、また、森林や林業への関心を深めていただくため、平成二十一年度に初めて開催されました。平成二十三年度から二十五年までには、震災の影響で休止していましたが、平成二十六年度に活動を再開し、今回が都合四回目の開催となりました。

当日は、好天に恵まれ、参加者は、時折吹く海風を受けながら、唐鍬やコンテナ苗用の専用器具を使いながら苗木を植えていました。

海岸林での開催は今回が初めてで、植樹祭を主催した齋藤理事長は、「町の復興の一助に貢献できればいい。今後も、活動の一つとして海岸林の再生に取り組みたい」と話していました。



植樹を終え、参加者全員で記念撮影

(林業振興課企画推進班)

### 「市民参加の 新たな森林づくり・春」 植樹祭を開催

五月二十四日(日)、「平成二十七年市民参加の新たな森林づくり・春」植樹祭が、登米市と宮城県の共催により開催されました。このイベントは地球環境にとって大切な資源である森林を次代に引き継ぐため、市制施行の平成十七年から開催しているものです。

十回目となる今回は、登米市津山町の登米市有林において、宮城県が開発した花粉の少ないスギの苗木六六〇本の植樹が行われました。



植樹の様子

当日は横山小学校緑の少年団をはじめ、一般の御家族、企業

での参加など、約一五〇名が参加しました。気温は高かったものの晴天に恵まれ、参加者の皆さんは、植えた木々の生長と、豊かな森になることを祈りながら、一本一本丁寧に植樹を行っていました。



参加者全員で記念撮影

また、「わたしの記念植樹」会場では、子供の誕生や結婚などを祝した記念の標柱が設置されました。

植樹終了後には、道の駅津山もくもくランドの円形広場にてエコ戦隊ショーが開催され、森林や環境について理解を深める有意義な一日になりました。秋には東和町米川地区での植樹祭が計画されています。

(東部地方振興事務所  
登米地域事務所)

### 「海岸防災林再生・ さすな苗木植樹」 の開催

東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた海岸防災林の再生を図るため、平成二十七年三月二十一日(土)に亘理町内で、県内のボランティア団体等との協働により植樹を行いました。

この植樹に使用された苗木は、震災からの復興を支援する目的で、鳥取県(コナラ・ケヤキ・クリ九百本)や新潟県(抵抗性アカマツ千本)、長崎県の個人の方(ツバキ百本)から寄贈いただいた、「ぎずな苗木」です。

当日は、春の日差しが暖かく、風もほとんどない絶好の植樹日和の中、参加者約九十人が高くたく育つよう願いを込めて、苗木二千本を一本一本丁寧に植えました。

今回植樹した全ての苗木が活着し、将来は緑豊かな海岸防災林へと成林し、後背地への飛砂防備や潮害防備の機能が発揮されるものと期待しています。

今年度も引き続き同じ場所において、鳥取県及び石川県から贈呈を受けた復興支援苗木の植

樹を予定しています。



植樹後の記念撮影



植樹後の状況

(自然保護課みどり保全班)

### 未利用間伐材利用促進対策の補助事業の活用を

国では「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づく基本方針において、京都市議定書第二約束期間(二〇一三～二〇二〇年)の中で、年平均五十二万鈔の間伐面積を目標としていきます。そのうち本県では、年間五六〇〇鈔を目標としています。東日本大震災の影響で年々間伐面積は減少し、平成二十五年度は二八〇六鈔(間伐と同等の効果のある他の施業等を除く)に止まっています。

国では、間伐面積の目標達成に向けて、森林環境保全直接支援事業(県事業名「森林育成事業」)等の従来の補助事業に加えて、平成二十六年度補正予算として、森林整備加速化・林業再生交付金事業(未利用間伐材利用促進対策)を創設し、本県に対しても予算が配分され、今年度活用できることとなっています。

この未利用間伐材利用促進対策は、原則七齢級以下の森林を対象に、これまで伐り捨てられていた未利用間伐材の搬出を促進し、木材加工施設やバイオマス利用施設へ安定供給する条件

整備を行うことを目的としており、一鈔当たり、一立方メートル以上の搬出間伐材を行うことにより、二十三万六千円が補助されるものです。

近年の本県での間伐面積の低下は、本県の森林の公益的機能の低下や将来の森林の価値の低下につながります。また、温室効果ガス削減を図る国の国際的な責務に支障を来すことから、国からは積極的な活用を求められています。

つきましては、関係者の皆様には、未利用間伐材利用促進対策による補助事業を最大限活用し、間伐を推進していただくよう御協力をお願いします。



(森林整備課森林育成班)

### 松くい虫被害対策の取組

「松くい虫被害」は、体長約一ミリメートルのマツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリによって松の樹体内に運ばれ通水障害を引き起こすことで、松が枯死に至る現象です。

仙台地方振興事務所管内においても特別名勝「松島」地域を中心に被害が多く見られます。平成八年以降減少傾向にあった被害量は東日本大震災以降増加傾向にありましたが、徹底した対策を続けた結果、平成二十六年度の被害量は再び減少に転じています。

松くい虫被害対策は、マツノマダラカミキリの侵入を防ぐための薬剤散布などを行う「予防事業」と、被害が確認された松



空中散布実施状況

を伐倒し、現場で薬剤処理あるいは被害木を搬出する「伐倒駆除事業」に分けられます。

対策を進める上で、被害の早期発見や駆除はもろろんのこと、「予防事業」の継続実施が重要となります。

今年度も松島町と共同で町内約百鈔を対象に、ヘリコプターによる薬剤空中散布事業を実施しました。また、地上からノズル等を用いて薬剤を散布する地上散布事業も松島町を含む四町村で、約九十鈔を対象に実施しました。

これらの事業により、松くい虫被害の軽減効果が期待されます。



地上散布実施状況

新たに発生する被害については、「伐倒駆除事業」により被害木を伐倒し、被害の拡大を防いでいきます。

今後、管内の松林を被害から守るため、引き続き対策に努めてまいります。

(仙台地方振興事務所)

# 七ヶ宿町林業懇談会 が開催されました

七ヶ宿町は、町域の九割以上を森林が占め、県内で最も森林率が高い市町村です。また、森林に占める国有林割合も県内一位となっており、林業を活性化するには、民国が連携した取組が必要であるとともに、まずは林業関係者の意見交換が不可欠です。

こうした中、五月十四日(木)に七ヶ宿町林業懇談会が同町主催で開催されました。当日は、町長をはじめとする七ヶ宿町の関係者、東北森林管理局、仙台森林管理署などの国有林関係者、七ヶ宿町森林組合、古河林業株式会社などの主要事業者等多くの関係者が集いました。また、「森林・林業コンシェルジュ」として、岩手大学農学部

の岡田秀二教授が招かれ、貴重なお話を頂きました。岡田先生の話の中で強調されたのは、森林経営計画の重要性です。森林経営計画を立てること、様々な補助制度が活用できるのもちろんのこと、森林整備地域活動支援交付金制度に

おいては、経営計画を立てる前段階のソフト事業の活用も可能となります。補助制度を熟知し、まずは具体的に動いていくことの重要性が説かれました。

また、七ヶ宿町森林組合、古河林業株式会社、新誠木材株式会社、二瓶林業からもそれぞれ現状報告が行われ、これらに対して岡田教授から助言等がなされました。

今回の懇談会は、七ヶ宿町の林業の活性化に向けた顔合わせ的な位置付けでした。次回以降必要となってくる個別具体的な調整等に向け、県としても様々なかたちで同懇談会をサポートしていくこととしています。



林業懇談会の状況  
(マイクを持っているのが岡田先生)

(林業振興課企画推進班)

## 宮城県森林情報提供システムの運用開始について

平成二十七年四月一日から森林計画図等の情報がインターネット上で閲覧・印刷できる「宮城県森林情報提供システム」の運用を開始しました。

これまで県庁又は県の出先機関でしか確認できなかった地域森林計画対象森林の区域等、ともに、樹種や林齢別に着色された図面や保安林や自然公園等の区域についても閲覧することが可能となりました。(保安林等の正確な位置は、各担当部署にお問い合わせください。)



インターネットで閲覧できる森林計画図

また、閲覧等に当たっては、字名や座標等により該当箇所の検索が可能となっておりますので、多くの方に御利用いただければと思います。

なお、システムの運用開始に伴い、これまで県庁及び各合同庁舎に備え付けていた森林計画図は廃止しました。森林計画図の写しが必要な場合は、県庁林業振興課又は各地方振興事務所(地域事務所)(仙台地方振興事務所は除く。)で交付できますのでお問い合わせください。

### ○閲覧可能な図面等

- ①森林計画図
  - ②各種主題図(樹種別、林種別、林齢別、保安林)
  - ③その他の情報(山地災害危険地区、国立公園、その他の自然公園等)
  - ④空中写真(一部地域のみ)
- 利用に当たっては、サイト内にありますので御覧ください。

宮城県森林情報提供システムアドレス

<http://fgis-pref-miyagi.jp/>

林業振興課のホームページからもアクセス可能です。

(林業振興課地域林業振興班)

## 森林吸収オフセット・クレジットの推進について

### ■取組の概要

森林吸収オフセット制度は、森林整備による二酸化炭素吸収量を企業等がクレジットとして購入し、企業活動等で発生した排出量のオフセット(相殺)に利用できる制度です。県では、平成二十三年度及び二十四年度に「みやぎ環境税」を活用して森林吸収系クレジット(J-VER)を取得し、企業等に購入いただいた資金をさらなる環境整備に還元してきました。

県の取組をきっかけに、平成二十五年年度までに宮城県林業公社、登米市、米川生産森林組合でもJ-VERを取得し、取組が拡大しています。

### ■平成二十六年年度の取組

平成二十五年年度、環境省の「オフセット・クレジット制度(J-VER制度)」と経済産業省の「国内クレジット制度」が統合し、「J-クレジット制度」として新たな運用が開始されました。県が保有するJ-VERは平成二十五年年度中に完売しましたが、認定基準の変更により、県による新制度での取得は難し

くなったことから、平成二十六年年度以降は、林業公社等他団体が保有するJ-VERの販売促進や制度の普及PRに特化した取組を進めています。

具体的には、「宮城県森林吸収オフセット・クレジット普及広報会」の名義で各種環境イベントに共同出展したほか、県自らが発行する印刷物についてもカーボンオフセットを実施しました。

### ■平成二十七年年度の取組

平成二十七年五月、新たに南三陸森林組合と株式会社佐久がJ-クレジットを取得しました。県では、これらの新たな事業体も含めて引き続き支援していくほか、クレジットの購入によりカーボンオフセットに取り組む会社等の掘り起こしを行っていくこととしています。

H27.5月末現在

クレジット創出者	取得量 (バツファ 控除後) (t-CO <sub>2</sub> )	販売済量 (t-CO <sub>2</sub> )	残量 (t-CO <sub>2</sub> )
宮城県	1,868	1,868	0
林業公社	1,116	802	314
登米市	3,698	239	3,459
米川生産森組	2,260	223	2,037
南三陸森組	62	0	62
(株)佐久	27	0	27
合計	8,942	3,132	5,810

※販売価格：10,000～15,000円/t(税抜)  
※クレジットの取得・購入に関心をお持ちの方は、下記までお問合せください。  
連絡先：rinsins@pref.miyagi.jp /022(211)2911

(林業振興課企画推進班)

## 林業の講座と研修のお知らせ

林業技術総合センターでは、山で働く人を育成する目的で、九つの研修を行っています。

新たに林業に従事するため、基礎的な知識と技術を習得したい方には「林業教室」をお薦めします。毎年四月に、最寄りの地方振興事務所林業振興部にお問い合わせください。

山を楽しみながら森の手入れをしたい方には「里山林の管理基礎講座」がお薦めです。この講座の募集は九月です。興味のある方は県広報誌、宮城県林業技術総合センターのウェブサイト



里山林の管理基礎講座

ト等を御覧ください。人気があり、高い倍率となっています。

これからは、「山仕事ガイダンス」や「林業就業支援講習」、「緑の雇用」等がお薦めです。これらは、宮城県林業労働力確保支援センター、ハローワークにお問い合わせください。

今年度から林業事業体の職員向けに「林業人材育成ステップアップ研修」を開催します。この研修は、森林施業の提案と集約化の実践力を身につけることを目指しています。

なお、当センター宛てにチェーンソーや刈払機の講習について多くの方からお問い合わせがあります。これらの講習に係る申込先は林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部(〇二二二二三三三八〇〇七)ですので、よろしくお願ひします。

今後関係機関と連携を図りながら人材育成に努め、各受講者がそれぞれの目的を達成できるよう、頂いた御意見を反映した研修カリキュラムを組んでまいります。

(林業技術総合センター)

普及指導チーム

研究情報コーナー

平成二十七年林業試験研究及び種苗生産計画の概要  
はじめに(基本方向)

平成二十六年十二月、本県の林業試験研究が目指す方向性を明確にし、実効性のある試験研究の推進を図るため「宮城県林業試験研究推進構想」を見直しました。本年度は、新しい構想に基づき、森林や林産物の放射性物質対策及び海岸防災林の再生対策など「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」の推進を加速させる試験研究について重点的に取り組むほか、獣害対策をはじめとする森林保全分野及び花粉症対策など社会的ニーズに対応した林木育種分野についても積極的に試験研究を推進してまいります。

また、林業用種苗の生産についても、平成二十七年三月に見直しを行った「宮城県林木育種事業推進計画」に基づき、苗木の需要量及び社会的な要請を把握した上で、採種園及び採穂園の充実と種苗供給の体制整備を図ってまいります。

平成二十七年年度の重点研究分野と主要な研究課題

【活力ある林業県宮城を推進する技術研究】

①「原木しいたけ生産再開に向けた生産実証試験と原木林及びほだ場の汚染状況・生産物への放射性物質移行に関する基礎調査」

放射性物質汚染被害を被っている原木しいたけ生産において、ほだ場の環境や子実体への放射性物質の移行などについて調査し、生産再開に向けた基礎データを収集します。



ほだ場試験地での原木しいたけ発生状況

②「コンテナ苗等を活用した再造林コストの低減に関する研究」

造林未済地の解消に向け、スギコンテナ苗による植栽技術の現地適応化技術及び初期保育に関する低コスト技術などを検証します。

③「効果的なニホンジカ保護管理の推進を目的とした生息

状況調査と森林影響度調査」  
生息分布や密度、森林の下層植生などを調査し、森林環境への影響が懸念されるニホンジカの生息実態を明らかにします。



林床植生が消失し、ディアラインが形成された森林

【美しい森林づくりを推進する技術開発】

④「スギの第二世代精英樹(エリートツリー)開発に関する研究」

林業再生に必要な育林コストの低減を図るため、これまでに選抜された精英樹の中から成長などが格別に優れるスギの第二世代精英樹の候補木を選抜し、その特性を調査します。

⑤「雌性不稔(無花粉)スギの品種改良に関する研究」

国立研究開発法人森林総合研究所が選抜した無花粉スギ品種「爽春」との人工交配を進め、本県の精英樹を由来とした無花粉

スギ品種を開発します。  
このほか、県産広葉樹の製品化に向けた木材加工技術の開発など、本年度は十七の試験研究課題に取り組みます。

平成二十七年年度の林業用種苗供給計画

【一般造林用種苗】

- スギ種子 四十キログラム
- ヒノキ種子 十キログラム
- アカマツ種子 五百グラム
- クロマツ種子 二キログラム
- 【海岸防災林造成用種苗】
- 抵抗性クロマツ種子 八キログラム

【スギ花粉発生源対策種苗】

- 少花粉品種苗 二万本
- 低花粉品種苗 五万五千本



花粉の少ないスギさし木苗の育苗状況

なお、スギ花粉発生源対策種苗については、少花粉品種の生産割合の増加に努めています。

(林業技術総合センター)

森林管理署情報

宮城県国有林野等所在市町村長  
連絡協議会が開催されました

五月二十九日(金)、宮城県国有林野等所在市町村長連絡協議会が仙台市の「ホテル白萩」において開催されました。

当協議会は、宮城県内の国有林が所在する市町の首長や林務関係担当幹部の方に出席いただき、宮城県内の森林管理署(仙台及び宮城北部)の代表と、国有林の取組、地元からの要望・提言等について、毎年一回意見交換・情報交換を行うもので、今年度は第三十三回目の開催となりました。



代表世話人 蔵王町長(前列中央)

協議会の代表世話人である蔵王町長を座長とする協議では、事前に頂いた質問のほか各市町から国有林のみならず民有林行政に関する要望、参加市町の課題、市町独自の取組についても情報提供があり、民有林・国有林を問わない情報共有ができたことは今後の取組を進めるうえで大変有意義であったと思われまます。



市町からの出席者

(仙台森林管理署)

JICA研修生が仙台湾沿岸の海岸防除林で視察研修を行いました

六月五日(金)、JICA(国際協力機構)の研修生四名が仙台湾沿岸の海岸防除林の造成現場を訪れ、仙台森林管理署が行っている基盤造成や植栽の状況について説明を行いました。研修生はケニア国の森林研究所及び森林局の職員で、JICAが現地で実施している「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」において、乾燥に強い品種の選抜育種やその普及を担当しています。

視察研修では、最初に、署内で宮城南部の国有林や海岸林に関する説明を行いました。その後、仙台湾の海岸防除林造成現場へ移動し、津波に対して粘り強い森林とするため盛土をしていくこと、マツクイムシ抵抗性のクロマツが植栽されていることなどを説明しました。

研修生は、前日まで林木育種センター東北育種場で見学していた抵抗性育種の成果が現場の事業に活かされていることに、深い興味を示していました。また、震災前の写真と見比べて、現地在が全く様変わりしている状

況にも大変驚いており、津波の怖さを実感したようです。研修生の一行は、さらに九州や沖縄でも研修を続けることと、東北をはじめ日本で学んだ成果が現地で活用されること期待されます。



管理署内での説明の様子



現地研修の様子

(仙台森林管理署)



## 木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成27年5月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m <sup>3</sup> )					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	9,000	10,800	—
		16~30	10,800	9,000	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	—	10,080
	4.00	10~13直曲	9,000	9,000	9,360	9,360	10,080	9,360
		14~18	10,080	9,000	9,360	9,360	10,080	9,360
		20~28	—	10,080	10,080	10,080	—	—
		30上	—	10,080	10,800	10,800	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,080	—	—	—	10,800	10,080
		30上	10,080	—	—	—	11,520	10,800
1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	

資料:宮城県森林組合連合会

### 概況

#### 素材動向

各センターの入荷は順調で荷動きも悪くはないが、製品市況の低迷が続いていることから原木価格の値下がり止まらず4.00m10~13cm・14~18cmは9,000円/m<sup>3</sup>台前半での取引となっている。中目材も値下がり傾向にはなってきたが、10,000円/m<sup>3</sup>台は確保できた。4.00m36cm上については応札が無く元落材が多かった。  
(宮城県森林組合連合会)

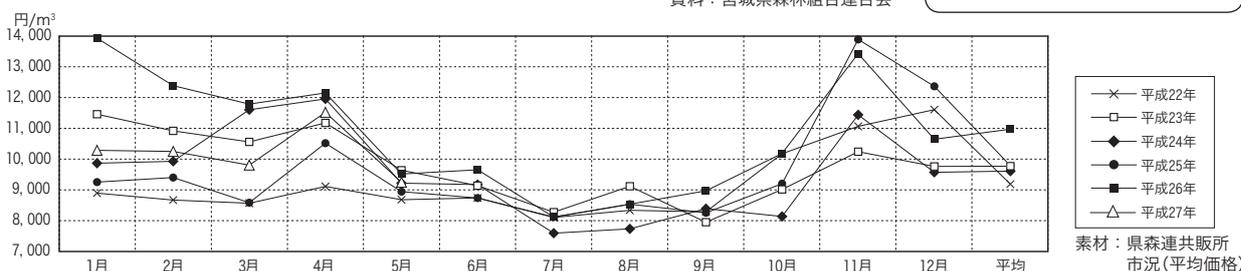


図1 素材価格の動き

素材: 県森連共販所市況(平均価格)

## 特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786	810	791	843	938
平成23年	924	862	778	758	740	773	754	797	868	861	867	975
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880	903	1,009
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916								

資料: 仙台中央卸売市場

### 概況

平成24年次は、原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等にもとない価格は下落したが、平成25年次から持ち直し傾向となり、平成26年次は対前年比+63円と震災前を上回る価格にまで回復している。  
平成27年次も、前年を上回る高い水準での取引が続いている。  
なお、平成26年次の県産しいたけの入荷量は443.5tであり(前年比27.5t増)、市場占有率は75%(前年比11ポイント増)であった。

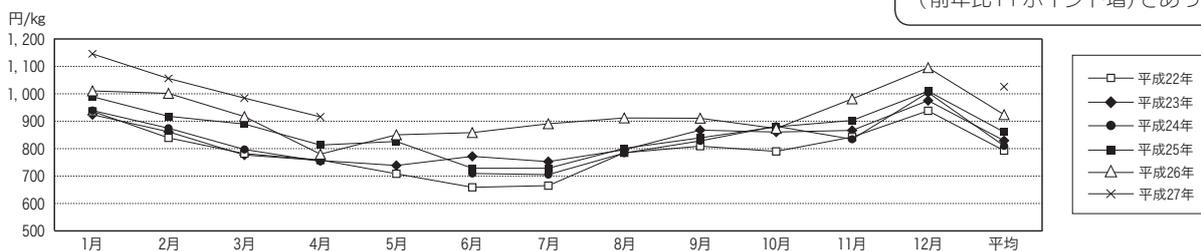


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(平成27年4月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成27年4月(戸)	2,248	1,385	863	61.6
平成26年4月(戸)	1,849	1,149	700	62.1
前年同月比(%)	121.6	120.5	123.3	—
平成26年5月~27年4月(戸)	24,875	15,219	9,656	61.2
平成25年5月~26年4月(戸)	25,072	16,071	9,001	64.1
前年同期比(%)	99.2	94.7	107.3	—

資料: 住宅着工統計

### 概況

#### 新設住宅着工戸数

新設着工数、木造戸数、非木造戸数とも対前年同月比較で増加している。非木造の増加が大きい。  
5月から4月の累計では対前年比で総数と木造は減少しているが、非木造は増加している。

国産材(生産販売)、木材チップ生産  
製材業、伐出造林請負



### 宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 征弘

本社 〒980-0871  
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号  
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150  
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山  
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山  
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社  
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業  
～100年かける家づくり～



自然との共生、めぐるめぐみ をテーマに、  
私たちは森を愛し、大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12  
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252  
www.web-sakamoto.co.jp

### 宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘  
専務理事 亀山 武弘  
理事 小山 松夫  
理事 佐々木 市夫  
監事 阿部 貢三  
監事 小澤 幸三

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

### 宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男  
副会長 亀山 征弘  
副会長 永井 政雄  
副会長 米澤 光秀  
副会長 山形 喜昭  
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151

### 見て触れて住んでしみじみ木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 佐藤 豊彦

### 宮城県木材需要拡大協議会

会長 佐藤 豊彦

### みやぎ材利用センター

会長 佐藤 豊彦

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8  
TEL:022-233-2883 FAX:022-275-4936

### 一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門  
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号  
TEL (0229) 22-1281  
FAX (0229) 22-1281  
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

森林は大切な資源です  
森林整備を通して  
美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社  
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172  
http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp

### みやぎ森林整備加速化・林業再生推進協議会

《構成員》

宮城県林業振興協会・宮城県森林組合連合会  
宮城県木材協同組合・宮城県森林整備事業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-4-46  
電話 022(225)2991

### 地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成，林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施，就業相談会の開催，林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

## 公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内  
TEL/FAX 022-217-4307

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。  
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

# 筒井鋼機株式会社

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231  
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807  
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp  
U R L http://www.tutuikoki.co.jp

**緑の募金** にご協力ください  
今植えた 小さなその芽が 大きな未来 (平成27年 国土緑化運動標語)

**緑の募金**  
森が育てる みんなの心

事務所、店舗等カウンターへの「緑の募金箱」の設置

2015年 緑の募金 キャンペーン

**春期募金期間** 4月1日～5月31日 **秋期募金期間** 9月1日～10月31日

## 公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内  
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を  
目指した活動を積極的に支援していきます。

## 農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

# JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

### ■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166	東和木材センター 0220-45-2240
大衡総合センター 022-345-2205	津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877	

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

◎山林用苗木生産、海岸防災林復旧事業用抵抗性クロマツ苗木生産

## 宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号  
TEL (022)222-3661 FAX (022)222-3688

## 林業の<sup>今</sup>を伝える月刊誌 平成27年度の購読申込受付中!!



**GR 現代林業**

A5判 80頁  
年間購読料 5,200円(送料込み)



**林業新知識**

B5判 24頁  
年間購読料 2,800円(送料込み)



**山林**

A5判 66頁  
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

### 宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎10階

**TEL 022-301-7501**  
**FAX 022-301-7502**

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号  
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課  
☎022-301-7501